

◎緑政の経費

緑化啓発事業	【	みどり課	】
--------	---	------	---

【総合計画上の位置づけ】

都市環境を保全・創造するまち

みどり: 豊かな自然や自然的景観を大切に保全するとともに、市民がみどりとふれあえるまち

【事業の目的】

対象 市民等

意図 緑の基本計画の周知を図り、市民と連携して緑の環境づくりを推進するため。

効果 緑地等の保全、管理活動を市民と連携して推進し、市域全体を緑豊かにすることにより、これまで確保してきた緑地や都市公園等の機能を高める。

【事業の内容】

(1) 緑化啓発事業

- ・ 市民との連携による緑の環境づくりを推進するため、緑の学校、緑のレンジャー、グリーンバンクの緑化啓発に関する事業について、業務委託を行った。
- ・ 敷地が道路に接する部分を新たに緑化する者に補助金を交付した。

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
7,845	7,245	6,528		717
主な支出内訳				
・ 緑化啓発事業				
緑化啓発に関する業務委託料 (委託事業の内訳)				4,500
緑の学校の企画・運営等 (参加者数=14名(延83名)、開催回数=10回)				
緑のレンジャー(ジュニアレンジャー)の企画・運営等 (参加者数=22名(延201名)、開催回数=11回)				
緑のレンジャー(シニアレンジャー)の企画・運営等 (参加者数=5名(延41名)、開催回数=11回)				
緑のレンジャー自主活動グループの支援・育成 (参加者数=延312名)				
グリーンバンクの企画・運営等				
まち並みのみどりの奨励事業補助金 件数=24件 総延長=301.7m				1,695
主な特定財源				
・ 国県支出金				925

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 景観-05 緑化啓発事業 □支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	301 緑化啓発事業					
主管課	みどり課	関連課					
分野名	みどり						
目標 (目標値)	緑豊かなまち並みの創造。地域緑化を推進する人材の育成。 緑地等の保全・管理を推進する人材の育成。						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備考 ・各年4月1日		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人			
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	6,528千円	5,030千円	4,679千円			
	(国・県)	925千円	939千円	1,258千円			
	(負担金等)						
	(一般財源)	5,603千円	4,091千円	3,421千円			
	人員配置数	1.4人	2.4人	2.4人			
	人 件 費	13,009千円	22,262千円	22,469千円			
協働の パートナー	かまくら緑のレンジャー 緑化推進団体	かまくら緑のレンジャー	かまくら緑のレンジャー	かまくら緑のレンジャー			
事務事業 運営経費	総事業費	19,537千円	27,292千円	27,148千円			
	市民1人当 りの経費	111円	155円	155円			
	対象者1人 当りの経費						
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
まち並みのみどりの奨励 事業(補助延長累計)	◎	目標値	14,000	14,500	15,000		
		実績値	14,847	15,132			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・「緑の基本計画」に沿って、「緑豊かなまち並みの創造」と「地域緑化推進の人材育成」等、独自の取り組みを進めてきたが、平成18年7月の計画改訂の中で示した新規施策の具体化に向けた取り組みを順次進める必要がある。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・「緑の基本計画」の改訂では、それまでの取り組みの成果を踏まえて「緑の啓発」については、「市民との連携の推進」に変更して新たな考え方を示している。 ・これに沿って「緑の情報の充実」「グリーンバンクの見直し」、また、「緑化啓発事業」については、公的な緑化推進団体との連携に取り組み、平成20年度から一部の事業を委託した。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・市街地の緑化の推進、特に公共施設の緑化をはじめ、関係する施策については、予算の範囲で効果的に進めてきたが、全ての新規施策を具体化するまでには至っていない。
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・緑化啓発事業(緑の基本計画の施策上は主に「緑化の推進」「市民との連携の推進」)は、これまでの成果の蓄積を基に、本市の財政環境を踏まえた市民との連携を充実させる。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	A	改善の必要性 有
	緑化の推進は、緑のネットワークを形成するために重要であり、特に民有地の緑化を積極的に推進させていくべきである。 また、「緑の基本計画」に沿って「市民との連携の推進」についても積極的に推進する必要がある。				
担当課長氏名:		みどり課長 村井 徹			

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	A	改善の必要性 有
	本市が着実に「保全すべき緑地の確保」や「都市公園等の整備」を進めている中で、緑豊かな鎌倉市の実現には、市街地の緑化をはじめ、市民との連携が益々重要になるので、今後とも積極的な取り組みを進めていきたい。				
担当部名	景観部	部長名	土屋 志郎		